

平成 31 年度（令和元年度）全国学力・学習状況調査の結果について

二宮町教育委員会

1 はじめに

平成 31 年 4 月に実施された「平成 31 年度全国学力・学習状況調査」の二宮町立小・中学校の調査結果の概要をお知らせします。二宮町教育委員会では、調査結果及び課題等を公表することにより、町民の皆様をはじめ児童生徒に関わる様々な立場の方に関心をもっていただき、二宮町の学校における教育指導の充実や児童生徒の学習意欲の向上につなげていきたいと考えております。

本調査の結果は町全体のものであり、各学校や児童生徒個人の学力や学習状況を表すものではありません。また、本調査は児童生徒が身に付けるべき学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面の結果です。

町民の皆様におかれましては、本調査の目的及び結果公表の趣旨をご理解いただくとともに、数値結果だけを重視するのではなく教育の過程も考慮いただき、本町の児童生徒の健全育成のために公表資料を有効にご活用くださいますようお願いいたします。

2 調査の概要

(1) 調査の目的

- ・義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る
- ・学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる
- ・以上のような取組みを通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する

(2) 調査の内容

- ・教科に関する調査（国語、算数/数学、英語）
- ・生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査（児童生徒に対する調査、学校に対する調査）

(3) 実施期日

平成 31 年 4 月 18 日（木）

(4) 調査を実施した児童生徒数

小学校 6 年生 210 人（3 校合計）

中学校 3 年生 200 人（2 校合計）

3 調査の結果について

(1) 教科に関する調査の平均正答数、平均正答率、中央値、標準偏差

※ 平均正答数：児童生徒の正答数の平均。(正答数の平均/総問題数)

平均正答率：児童生徒の平均正答数を百分率で表示。ただし、小数点以下第1位の数値を公表することが、数値データによる単純な比較が行われ、序列化や過度な競争を助長する一つの要因として考えられることから、文部科学省は都道府県別の平均正答率を整数値で公表。都道府県に対しても同様の配慮を求めていることから、二宮町の平均正答率も小数点以下第1位を切り捨てて表示。

中央値：集団のデータを大きさの順に並べたときに真ん中に位置する値。

標準偏差：集団のデータの平均値からの離れ具合を表す数値。

[小学校]

	平均正答数	平均正答率	中央値	標準偏差
国語	7.6 問/14 問	55%	8.0	3.3
算数	8.8 問/14 問	63%	9.0	2.9

[中学校]

	平均正答数	平均正答率	中央値	標準偏差
国語	7.4 問/10 問	74%	8.0	2.3
数学	10.1 問/16 問	63%	11.0	4.2
英語	13.0 問/21 問	62%	14.0	3.9

(2) 各教科の概要について

[小学校：国語]

良好な設問	課題が見られる設問
<ul style="list-style-type: none"> 目的に応じて、文章の内容を的確に押さえ、自分の考えを明確にしながら読む 	<ul style="list-style-type: none"> 話し手の意図を捉えながら聞き、自分の考えをまとめる 学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使う ことわざの意味を理解して、自分の表現に用いる

[小学校：算数]

良好な設問	課題が見られる設問
<ul style="list-style-type: none"> 台形について理解している 棒グラフから、資料の特徴や傾向を読み取ることができる 	<ul style="list-style-type: none"> 場面の状況から、単位量当たりの大きさを基に、求め方と答えを記述し、その結果から判断できる 加法と乗法の混合した整数と小数の計算をすることができる 示された除法の式の意味を理解している

〔中学校：国語〕

良好な設問	課題が見られる設問
<ul style="list-style-type: none"> ・ 語の一部を省いた表現について、話や文章の中での適切な活用の仕方を理解する ・ 文章に表れているものの見方や考え方について、自分の考えをもつ ・ 封筒の書き方を理解して書く 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 伝えたい事柄について、根拠を明確にして書く

〔中学校：数学〕

良好な設問	課題が見られる設問
<ul style="list-style-type: none"> ・ 証明の根拠として用いられている三角形の合同条件を理解している ・ 総合的・発展的に考察し、得られた数学的な結果を事象に即して解釈することができる ・ 資料を整理した表から最頻値を読み取ることができる 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 簡単な場合について、確率を求めることができる ・ 資料の傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することができる

〔中学校：英語〕

良好な設問	課題が見られる設問
<ul style="list-style-type: none"> ・ 教室英語を理解して、情報を正確に聞き取ることができる ・ 日常的な話題について、情報を正確に聞き取ることができる ・ 日常的な話題について、簡単な文で書かれたものの内容を、正確に読み取ることができる 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 書かれた内容に対して、自分の考えを示すことができるよう、話の内容や書き手の意見などをとらえることができる ・ 与えられたテーマについて考えを整理し、文と文のつながりなどに注意してまとまりのある文章を書くことができる

どの教科、領域も全国や神奈川県の結果と比較して著しい差異は見られません。選択式、短答式、記述式など解答方式による平均正答率も全国のそれと概ね同じ傾向です。正答数の中央値は小学校では国、県を下回り、中学校では国、県とほぼ同じ、または若干上回っています。

与えられた文章を読んで自分の考えをもつことや資料・グラフを読み取ることは全国の平均を上回っていました。特に中学校の英語において、教室英語や日常会話を正確に聞き取ることについては平均正答率が70%を上回っていました。

その一方で、自分の考えをまとめた文章で表現することや漢字の読み書き、基礎的な計算や式の意味に課題が見られました。繰り返し学習をしたり、家庭学習と連動したりするなどして定着を図ることが望まれます。

また、学校に対しては、文部科学省、神奈川県教育委員会が公表している「授業の改善・充実を図るポイント」を活用するとともに、自校の調査結果を全教職員で分析し共有することを求めています。

(3) 児童生徒質問紙調査の概況について

＜生活習慣や学習環境等に関する調査結果＞（抜粋）

太字：全国比±5%以上

質問 番号	質問内容	小学校(%)			中学校(%)		
		二宮町	神奈川県	全国	二宮町	神奈川県	全国
1	朝食を毎日食べている	95.7	95.1	95.3	92.0	91.3	93.1
2	毎日同じくらいの時刻に寝ている	80.9	80.7	81.4	74.3	74.2	78.0
3	毎日同じくらいの時刻に起きている	89.5	90.8	91.6	88.9	89.6	92.8
5	自分にはよいところがある	77.2	81.0	81.2	75.3	72.1	74.1
6	先生はよいところを認めてくれる	87.6	84.2	86.1	83.4	78.9	81.5
8	将来の夢や目標を持っている	75.7	82.1	83.8	75.4	67.7	70.5
12	学校に行くのは楽しい	80.0	85.4	85.8	72.4	80.7	81.9
13	学校のきまりを守っている	90.0	91.2	92.3	95.9	95.2	96.2
15	いじめはどんな理由があってもいけない	96.2	96.7	97.1	87.9	92.7	95.1
17	家で自分で計画を立てて勉強している	61.9	69.0	71.5	45.8	49.0	50.4
21	読書が好きである	69.6	73.0	75.0	78.4	63.4	68.0
23	地域の行事に参加している	71.4	62.2	68.0	40.7	42.9	50.6
24	地域や社会をよくするために何をすべきか考える	46.2	53.6	54.5	42.7	35.9	39.4
小 28 中 31	授業でもっとコンピュータなどの ICT を活用したい	88.6	83.8	86.5	76.3	74.7	78.3
小 31 中 34	総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集めて整理して発表する学習活動に取り組んだ	57.1	65.4	65.7	83.4	60.9	61.5
小 34 中 39	道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んだ	73.3	77.9	80.9	78.9	70.3	76.6
小 35 中 37	これまでの授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいた	71.9	77.2	77.7	77.3	73.7	74.8
小 36 中 38	これまでの授業では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や組み立てなど工夫して発表していた	58.1	64.0	62.5	65.3	58.5	55.8

※数値には、「どちらかといえばしている、そう思う」の回答を含む

「自分にはよいところがある」、「先生はよいところを認めてくれる」など自己有用感についての回答や「学校のきまりを守っている」など規範意識についての回答は全国や県と比較して著しい差異は見られませんでした。設問のとらえ方によるところもあるかもしれませんが、「いじめはどんな理由があってもいけない」の回答について中学生では全国平均を下回っていました。また、「学校に行くのは楽しい」と回答した児童・生徒の割合も全国と比べて低くなっています。児童・生徒の毎日の学校生活が充実したものとなるように教育活動を進めていくことが望まれます。道徳科の授業をより一層充実させるとともに道徳科の時間を中心に教育活動全体で児童・生徒の道徳性を養うことを大切にしていきます。

「将来の夢や目標をもっている」と回答している児童の割合や規則正しい生活習慣が身についている児童・生徒の割合は昨年度同様、全国平均を下回る傾向にあります。中学生の朝食の喫食率については、昨年度と比較して増加傾向にあるものの全国と比べて低い傾向にあります。

子どもたちが希望をもって自分の未来を切り開いていけるように、教育活動を通して世の中に関心をもてるようにすることが求められていますが、キャリア教育の推進や規則正しい生活習慣の定着については、学校と家庭・地域で連携・協力していく体制が必要となります。

家庭学習の習慣については、自分で計画的に学習している児童・生徒の割合は全国平均を下回っており、近年の質問紙調査でも同様の傾向が見られます。中学生においては平日学校の授業以外に2時間以上勉強していると回答した生徒は50%を超え全国平均を大きく上回っていましたが、主体的に学習を進めるところまでは至っていません。学習内容を定着させ、学習習慣を確立する取組を行うよう、学校に家庭との連携を求めています。

今年度よりICTの活用に係る質問が新設されました。全国の学校質問紙の調査結果によると、授業でICTを活用したいと思う児童・生徒ほど各教科の平均正答率が高い状況にあります。ICTを授業で活用したいと思う児童・生徒の割合は全国・県と概ね同じでした。引き続きICT環境の整備を進めるとともにICTを活用した指導力の向上も目指していきます。

小学生の約70%が地域行事に参加していると回答していることは喜ばしい状況です。発達段階も考慮しながら地域行事への参加などを通じて、地域の一員として育つことが望まれます。

総合的な学習の時間や道徳科の取組については小学校と中学校で取組みに差異が見られました。全国の調査結果を見ると、「課題解決に向けて主体的に考え取組んでいた」と回答した児童・生徒ほど各教科の正答率は高くなっています。「主体的・対話的で深い学び」の実現のために校内研修を通して組織的な授業改善に取り組むとともに、小中一貫教育の研究をより一層推進し、義務教育9年間を通しての目指す子ども像やそれぞれの学校種における取組を共有し授業改善に生かしていきます。

今年度より二宮町内のすべての小中学校がコミュニティ・スクールとなりました。家庭や地域との協働による取組の場面が今まで以上に期待されます。コミュニティ・スクールの仕組みを生かして学校、家庭、地域との協働による取組みで教育水準の向上を目指します。

4 今後に向けて

二宮町教育委員会では、本調査の結果の分析と考察を行い、その結果を各学校に示しました。各学校では、それぞれの分析を加えて課題を検討し授業改善や学校経営に反映させています。

今後とも、基礎的・基本的な知識・技能の確実な習得とともに、これらを活用して課題解決するために必要な思考力・判断力・表現力等を育む授業づくりに努め、より効果的なカリキュラムマネジメントが行われるよう教育委員会は各学校を支援していきます。

本調査を通じて、基本的な生活習慣や学習習慣の確立、地域社会との関わりは学力向上及び児童生徒の健全育成に大切であることが改めてわかりました。二宮町教育委員会では、児童生徒の生きる力を育成するために、家庭、地域と協働しながら「地域とともにある学校づくり」を進め、児童生徒の豊かな成長を支えていきたいと思えます。今後ともご理解ご協力をよろしくお願いいたします。